

学校便り

第334号
平成26年12月2日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

音楽の魔法

校長 鈴木 隆志

11月28日（金）29日（土）に、スマイルコンサート（音楽会）が行われました。たくさんの保護者、地域の方々に御参観いただき、盛大に行うことができました。光っ子たちへの温かい拍手や声援に、感謝申し上げます。ありがとうございました。

光っ子たちの音楽会を“スマイルコンサート”と名付けています。光っ子たちの笑顔で紡ぐ音楽会だからです。今年のスマイルコンサートのスローガンは、「みんなで心をつなげて 笑顔いっぱい のスマイルコンサートにしよう♪」でした。そのスローガンどおりに、光っ子たち一人一人が自分の「思い」や「役割」や「責任」を音に乗せて歌い奏で、心も一つになって、一つの楽曲になって、すてきな音楽表現が聴いている人たちの心にも届き、笑顔がいっぱいに広がっていきました。

今年のスマイルコンサートの幕開けは、全員合唱『ビリーブ』（杉本竜一／作詞・作曲）でした。

♪たとえば君が傷ついて／くじけそうになった時は／かならず僕がそばにいて／ささえてあげるよその肩を／
世界中の希望のせて／この地球はまわってる／いま未来の扉を開けるとき／悲しみや苦しみが／
いつの日か喜びに変わるだろう／I believe in future 信じてる♪
♪もしも誰かが君のそばで／泣きだしそうになった時は／だまって腕をとりながら／いっしょに歩いてくれるよね／
世界中のやさしさで／この地球をつつみたい／いま素直な気持ちになれるなら／憧れや愛しさが／
大空にはじけて耀（ひか）るだろう／I believe in future 信じてる♪

私も大好きな楽曲です。この歌は、東日本大震災の被災地でも歌われていましたが、光っ子たちも学校や家庭で辛いことや悲しいことがあった時、友達との関係で悩む時、この歌によって励まされることもあるでしょう。人は一人ぼっちではないのです。家族がいて、仲間がいて、信頼できる大人がいるのです。思いを寄せて歌っていると、涙が滲んできてしまう楽曲です。

音楽には魔法の力があると思っています。音楽は、嬉しい気持ちや楽しい気持ちにしてくれたり、心を明るくしてくれたりする力をもっています。音楽は、辛いときや悲しいときでも、励ましてくれたり、勇気や希望を与えてくれたり、私たちの背中を押してくれたりする力をもっています。音楽によって、心が癒されたり、なごまされたり、心が洗われたりもします。音楽が私たちの支えとなり、力が湧いてくることだってあります。音楽によって、お互いがつながり合って、仲良くもなります。音楽の魔法の力で、笑ったり、泣いたり、熱く燃えたり、言いたいことが言い合えたり、いろいろなイメージを膨らませたりすることができるのです。

学校での教育にも、家庭での子育てにも、魔法の力が必要です。「褒めてあげれば子供は明るい子に育つ／認めてあげれば子供は自分が好きになる／励ましてあげれば子供は自信をもつようになる」などの言葉で綴られるドロシー・ロー・ノルト博士の『子どもが育つ魔法の言葉』は、よく知られていますが、大切なことは、TPO（時<time>と、場所<place>と、場合<occasion>）だと思います。やみくもに褒めても、だめです。褒めるべきことを褒めるべき時に褒めるべきところで褒めてこそ、叱るべきことを叱るべき時に叱るべきところで叱ってこそ、私たちの言葉は魔法の力となるのです。教師も親も、子供を健やかに育てるための魔法の力を磨いていきましょう。